

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4079200335		
法人名	有限会社 てらだ苑		
事業所名	グループホーム さん愛		
所在地	〒822-1406 福岡県田川郡香春町大字香春1660 - 1 0947-45-1303		
自己評価作成日	平成24年10月22日	評価結果確定日	平成24年11月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

運営理念を、「より愛・ふれ愛・たすけ愛」として、日頃より、ご家族様と入居者様とが共に過ごせる機会を多く持っていただけるよう、さん愛新聞や行事案内を毎月お送りしております。また、入居者様一人ひとりがその方らしく安心して過ごせる様、職員全員が日々精進し、心地よく安らぎを感じていただけるような雰囲気・環境づくりに努めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グランドゴルフ場や、大型足湯を完備した「グループホーム さん愛」は、自然が残る田園地帯のなかにあり、デイサービス併設の2ユニットのグループホームである。リビングや、居室から眺める香春岳は、四季折々の姿を現し、利用者や職員が、季節を五感で感じ取る瞬間である。代表の福祉事業に対する熱い思いを、ベテラン職員が理解し、職員全員にも伝わり、利用者一人ひとりに、さりげない気配り、目配り、心配りを実践し、利用者や家族の安心と満足に結びついている。自慢の畑では、新鮮な野菜を収穫し、利用者や職員が作った料理を、批評しながら笑顔で一緒に食べる様子は楽しそうである。また、利用者の健康管理は、かかりつけ医と訪問看護、職員間の連携で万全である。開設8年目を迎え、地域福祉の拠点として、地域貢献に取り組むグループホーム「さん愛」である。

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5-27 093-582-0294		
訪問調査日	平成24年11月20日		

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:25,26,27)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,21)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:20,40)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:38,39)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足 していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:32,33)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な 支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

(A棟)

(セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	次のステップに向けて期待したい内容
			実践状況	実践状況	
<b>理念に基づく運営</b>					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の中の一員として、その方らしく生活が営めるよう、常に意識してケアにあたっている。	「より愛・ふれ愛・たすけ愛」の「さん愛」をモットーに、住み慣れた地域の中で、自分らしく生き生きと過ごせるよう支援していくというホーム独自の理念を掲げ、常に介護サービスの原点を忘れずに、利用者一人ひとりに合わせた介護サービスの提供を実践している。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に積極的に参加したり、老人会・青年部や小学校との交流会も盛んに行っている。運営推進会議等を活用し、意見交流に努めている。	公民館や納骨堂の清掃や、地域、小学校の行事に、利用者と職員が参加している。また、ホームの足湯を開放し、グランドゴルフ大会に地域の方が参加したり、小学生のふれあい体験等、地域交流が活発に行われている。中でも子供達と利用者が、おはじきやめんこで遊ぶ楽しいひと時は、利用者が昔に戻る瞬間である。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の高齢者の方や、高齢者のいる家族からの相談や心配事があるときは、いつでも話をさせていただいている。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方や入居者家族の参加により、2ヶ月に1度開催し、活動報告や意見等から、サービスの質の向上に活かしている。	会議は2ヶ月毎に開催し、地域代表や行政職員、併設デイサービス職員が参加し、ホームの実情や課題等話し合い、参加者からも活発な意見や情報、質問等出され、充実した会議としてホーム運営に反映されている。また、会議の中で、小学校の先生に人権の話をしてもらう等、内容の充実に向けて取り組んでいる。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	困ったときには、電話等で連絡をとったり、市町村担当者を訪問し、意見を聞いている。	運営推進会議に行政職員の参加があり、ホームの実情を理解してもらっている。また、電話や直接出向く等して、質問や困難事例の相談等を行ない、行政との協力関係を築いている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束・抑制をしないことが当たり前を認識し、実践している。会議において周知するよう努めている。	身体拘束廃止マニュアルに基づいた研修会を通して、拘束についてを理解し、言葉の抑制等と合わせて職員間で話し合い、拘束が利用者に与える影響を理解して、身体拘束をしないケアの実践に向けて取り組んでいる。また、玄関の鍵は、日中は施錠せず、自由に出入り出来る環境である。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入居者の尊厳を大切にし、身体への暴力・虐待はもちろんのこと、言葉の暴力も見逃さないよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度については、研修を通じて学ぶ機会があり、必要な方には、活用できるよう支援を行っている。	制度に関する勉強会を実施し、職員一人ひとりが理解して利用者や家族に説明出来る体制を整えている。また、パンフレットや資料を準備し、利用者や家族が制度を必要とする時には、いつでも支援出来る体制がある。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に際して、十分な出づめ意を行っており、入居者やそのご家族とは、電話連絡等を頻繁に行い、不安や疑問があれば、気軽に話が出来るような環境づくりに努めている。		
10	7	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者の方が、不安・不満・意見が言いやすい雰囲気や環境づくりを行い、傾聴を心掛けている。玄関には目安箱を設置し、意見・要望等を記入していただき、2ヶ月に1度、会議を行い、サービスの質の向上に努めている。	玄関に手作りの大きな目安箱を設置、苦情受付窓口の明示、年2回家族会を開催する等、利用者や家族が意見を表せる機会を設けている。また、ホーム便りを毎月送付し、家族の面会時や電話等で利用者の近況報告をしながら、家族の意見、要望を聴き取るように努め、出された意見は出来るだけホーム運営に反映させている。	
11	8	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や日々の業務の中で、意見や要望等を聞き、職員が働きやすい環境づくりに努めている。	毎月定期的に職員会議を開催し、職員の意見や要望、提案を聴き取り、出された意見が反映されるように取り組んでいる。また、管理者と職員は日々の業務の中で、気付いた事、気になる事等話し合い、介護サービスやホーム運営に反映出来るように努力している。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は常に職員の働きやすい環境を作り、個々の職員に対し、能力・実績に対する評価を行っている。		
13	9	人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	個々の職員に対し、一人ひとりの能力が活かせるよう、注意深く見守り、職員が働きやすい環境を整えている。	絵、パソコン、料理、歌や踊り等、職員の特技を活かせる職場環境を整え、職員が生き生きとやりがいを持って仕事が出来るように配慮している。また、職員の採用は、年齢、性別、経験等の制限はなく、人物優先で取り組んでいる。	
14	10	人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	入居者一人ひとりに安心・尊厳のある生活を提供するため、職員の意識向上を目的とした勉強会を毎月行っている。	毎月の勉強会の中で、利用者の人権を尊重するための介護サービスの在り方を話し合い、ホーム理念に立ち返り、利用者の尊厳を守る介護を目指し、職員全員で取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々のスキルを見定め、段階に合わせた研修に参加できる機会を設け、職員のスキルアップに努めている。		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加入している。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前からの本人の状態を把握しながら、安心して生活できるよう努めている。		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時等にはいろいろと意見を聞き、改善していくよう努めている。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談時に要望等を聞き入れ、職員が本人の状態にあったサービスや他のサービスの利用も含め説明している。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一日の始まりから一緒に過ごす事で、出来る事は本人で行っていただき、家庭的な関係を築いている。		
21		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	問題解決はご家族と一緒にいき、本人にとって良い方法を一緒に考えながら支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>馴染みの人がいつでも気軽に来苑出来るような環境作りに努めている。</p>	<p>利用者の友人、知人、親戚等の面会時には声をかけ、お茶を出す等して、来訪しやすいような雰囲気作りに努めている。実際、近所の方が訪ねて来られ、利用者が生き生きと話される姿も見られた。また、入居後の、仲の良い利用者同士や職員との信頼関係等、新しい馴染みの関係を大切にしている。</p>	
23		<p>利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>スタッフが間に入り、皆が助け合い、支え合い楽しく過ごせる様努めている。</p>		
24		<p>関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>退所時には、「何かあったらいつでも相談して下さい。」と声かけをし、手紙を出したりしている。</p>		
<b>、その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	12	<p>思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>本人の意見には耳を傾け、きちんと話し合い、希望にお応えできるようにしている。</p>	<p>職員は、利用者の意見や要望を聴き取り、家族と相談して、出来るだけ要望に応える努力をしている。また、意向表出が困難な利用者には、ベテラン職員のアドバイスや家族に相談したり、過去の記録を見直す等、利用者が今、何をしたいのか本人の思いの把握に努め、利用者本位の介護サービスの提供を目指している。</p>	
26		<p>これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>家族や医療機関と連携をとり、本人の状況把握に努めている。</p>		
27		<p>暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>職員同士がどんなに些細な事でも、情報交換している事で、把握できている。</p>		
28	13	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>3か月に1度モニタリングを行っている。また本人の状態の変化等には、それぞれの意見を聞きながらその都度対応する。</p>	<p>介護計画は、利用者や家族の希望を聴き取り、主治医や職員と話し合い、6ヶ月毎に作成している。また、利用者の状態変化に合わせ、家族や主治医と連携し、その都度介護計画を見直している。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の生活、身体状況をすべて記録し、状態を把握し、計画に活かしている。		
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問マッサージ等の手配に取り組んでいる。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	夏祭りや敬老会など、行事の際には地域の方にも参加していただけるよう、チラシ等で呼びかけを行っている。		
32	14	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人の状態に応じて、適切な病院をご家族と本人の希望も考慮し、受診するように心がけている。	利用者や家族の希望を優先し、かかりつけ医の受診支援を行っている。また、2週間毎の往診を協力医院にお願いし、訪問歯科や訪問看護と合わせ、利用者の健康管理は充実している。	
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	薬の内容や入居者の身体の変化等に気付いた際は、相談するようにしている。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は、ホームでの生活状況を細かく申し送りするようにし、その後の入院生活についても、情報交換がスムーズに行える様努めている。		
35	15	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人やご家族にとって、どのような終末期を迎えるのが最良であるか、また、その為にどのような援助ができるか日頃より相談しやすい関係を築けるように努めている。	ターミナルケアの指針を作成し、ホームで出来る事、出来ない事を利用者や家族に説明し、理解を得ている。また、利用者の重度化に向けて家族と話し合いを重ね、方針を共有し、主治医の協力を得て、利用者がいつまでも安心して暮らしていける環境を整えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当しやすいように救急箱を備え、吸引器は食事ホールに常備している。		
37	16	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行い、緊急対応マニュアルを作成し、いつでも手に取り、閲覧できるようにしている。	年2回の防災訓練を消防署の協力と指導を得て実施し、緊急対応マニュアルを作成し、避難経路、非常口、避難場所の確認をしている。また、非常災害時に備えて、非常食、飲料水、非常用備品の準備もある。	
<b>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	17	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりを尊重し、自尊心を傷つけないように、言葉遣いや態度に常に注意を払っている。また、守秘義務を厳守し、プライバシーを守っている。	職員は、利用者のプライドや羞恥心に配慮し、優しい声かけやさりげない見守りで、利用者が安心出来るサービスの提供を目指している。また、個人記録の保管は厳重にして、職員の守秘義務遵守は徹底されている。	
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の訴えには必ず話を最後まで聞き、対応するようにしている。どんなに些細な事でも、共に分かち合えるように努めている。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れはあるが、入居者のペースに合わせて、その都度対応するように心がけて援助している。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服を選べる方は、一緒に選び、外出や行事の際は、普段とは違う服装にするよう心掛けている。白髪染めや散髪を定期的に行っている。		
42	18	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	下膳ができる方には声をかけ、協力していただいている。おしぼりやエプロンをたたんで準備をしていただいている。	ホームの畑で採れた新鮮な野菜を使い、利用者の好みを聴きながら、味、彩り、量等の心配りがあり、品数も多く、調理自慢の職員による美味しい食事である。利用者がお絞りのたみ、下膳等に協力し、同じテーブルで一緒に会話しながら食べる、笑い声溢れる楽しい食事の時間である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表にて、水分・食事の記入を個人に適した量、調理法により支援を行っている。		
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行い、また、週に1度の歯科往診による口腔ケアも行っている。		
45	19	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎日、決まった時間に声かけを行い、トイレへ誘導を行っている。	職員は、排泄チェック表や水分摂取表を把握し、利用者の習慣を考慮して、優しい言葉かけや早めの誘導で、トイレでの自立に向けた排泄の支援をしている。また、重度化でオムツの使用が増加する事に対して、使用方法等の研究を重ね、オムツの使用軽減に向けて取り組んでいる。	
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、水分、食事のチェックを行うと共に、排便の確認を行い、排便のない日が続いた場合には医師に相談している。		
47	20	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	最低週に3回の入浴を確保し、各々に応じた入浴支援を行っている。	日当たりの良い明るい浴室である。入浴は週3回であるが、利用者の希望や体調に合わせ、毎日入ることや日時の変更等、利用者が楽しい入浴に繋がるよう柔軟に対応している。入浴を拒否される利用者には、無理強いせず、職員や環境を変えるようにしている。また、菖蒲湯、柚子湯等、季節に合わせて入浴を楽しめる支援をしている。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時々に合わせて、休息を行い、夜も安心して快適に眠っていただけるよう、居室の環境整備に努めている。		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ケアノートに薬の説明書を閉じており、薬は各々の薬ケースに保管し、服薬支援を行っている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯や折り紙等を楽しまれたり、それぞれの趣味等を取り入れたレクなども計画している。		
51	21	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	苑外を職員と共に散歩したり、苑庭にて日光浴を行ったりしている。	敷地内に大型の足湯や、グランドゴルフ場が整備され、菜園での野菜の収穫等、日光浴を兼ねて、天気の良い日は戸外で過ごす事が多い。また、季節毎のレクリエーションや買い物、外食等、利用者の気分転換を図り、生きがいのある暮らしになるよう支援している。	
52		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自身で金銭管理の出来る入居者には、金銭を所持していただき、利用できるよう支援している。ご自身での管理が困難な方は、一緒に買い物に付き添うようにしている。		
53		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族との関わりを大切に、本人の希望に応じて、いつでも連絡のとれるよう努めている。		
54	22	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自身の家のように安心して過ごしていただけるよう、住み慣れた空間づくりを行っている。また、月ごとに壁画のデザインを替え、季節の移り変わりを感じられるようにしている。	利用者が楽しそうに写っている行事や記念の写真を飾り、季節毎に壁画の作品と一緒に作り掲示し、利用者に季節の移り変わりを感じ取ってもらっている。ウッドデッキには愛犬ラブが家族の一員として暮らし、利用者の気持ちを穏やかに癒している。リビングルームでは、利用者同士や、職員との楽しい会話が弾み、生き生きとした暮らしぶりである。	
55		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者の方々一人ひとりが安心して過ごす事のできる場所づくりを意識している。また、困りごとや悩みがある際は、すぐに相談できるよう、職員が注意している。		
56	23	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居をする際は、今まで使用していたものを持参していただくよう声かけを行い、居心地よく過ごせるよう配慮している。希望に応じ、ハイチ等も変え、ご家族の意見等も取り入れ、過ごしやすくなるよう心掛けている。	居室は、利用者の自宅と違和感がないように、入居時に利用者や家族と相談して、使い慣れた家具や、仏壇、小物、家族の写真、大切な物等を持ち込んでもらい、利用者が居心地良く暮らせるように支援している。	
57		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者一人ひとりの状態を職員はしっかりと理解し、行動の妨げになるものや危険を伴うものは手の届く場所には置かず、安全に配慮した環境づくりに努めている。		